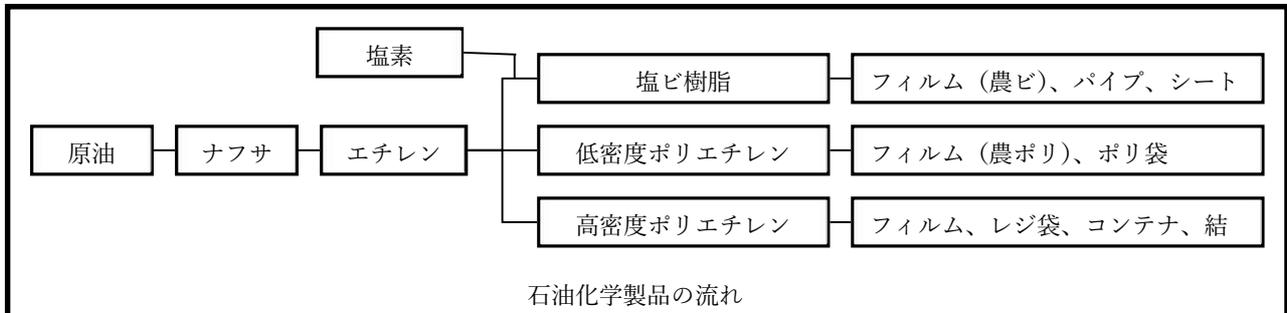


農業資材情勢

1 被覆資材



参考資料

- ・ 農業資材通信
- ・ 日本経済新聞
- ・ 石油連盟貿易統計

(1) 原油価格

原油価格のアジアの指標であるドバイ原油価格につきましては、サウジアラビアが主導した大規模な協調減産が価格の下支えをし、令和3年3月に1バレル63.95ドルとコロナ前の水準となっておりますが、令和4年に入りロシア・ウクライナ情勢の緊張の高まり等により価格は上昇し、令和4年3月の価格は1バレル113.11ドルとなっております。

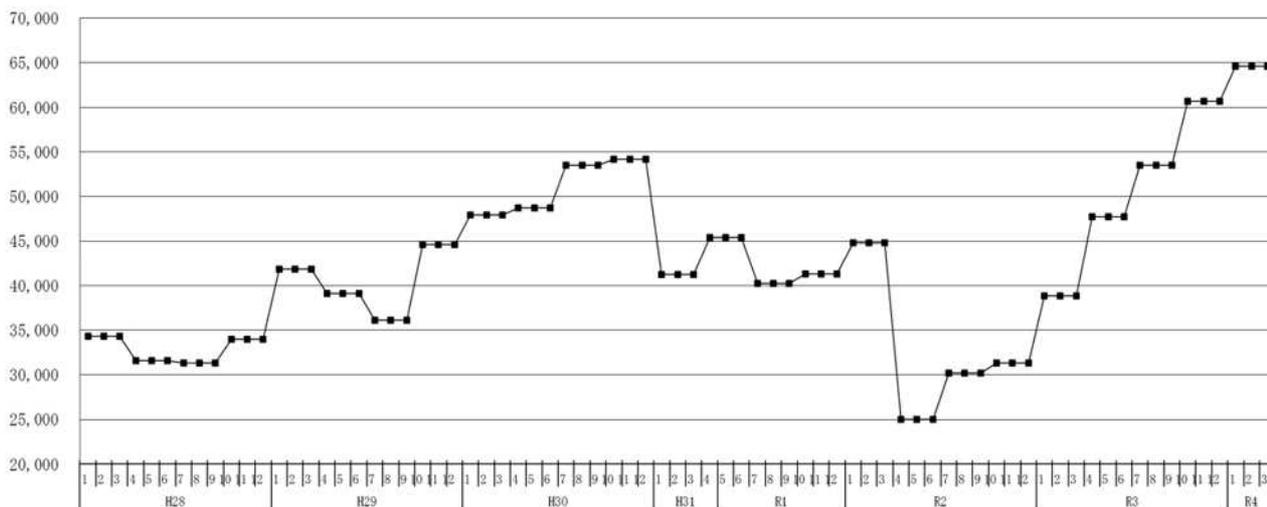
欧州連合（EU）を中心としたロシア産原油の取扱を巡って一段と供給がタイト化しかねないという見方がある一方で、中国の大規模なロックダウンの影響などにより需要が停滞するとの見通しもあり令和4年4月の価格は1バレル102.68ドルとなりましたが、5月は108.32ドルと再び上昇し、不安定な状況が続いております。

(2) ナフサ価格

石油化学製品の基礎原料となる国産ナフサ価格につきましては、円安の影響や、原油価格に連動して上昇を続けており、令和3年10～12月価格は60,700円/k1で6四半期連続の値上げとなり、7年ぶりの6万円台に達しました。

また、令和4年1～3月期の国産ナフサ価格は64,600円/k1と前四半期より3,900円/k1の値上げとなりましたが、直近では約20年ぶりといわれるほどの円安水準に突入していることも影響し、スポット価格から算出すると令和4年4～6月期の国産ナフサ価格はさらに大幅に上昇し、8万5千円/k1程度になる見込みとなっております。

【国産ナフサ価格推移】



単位：円/KL

(3) 塩ビ樹脂・低密度ポリエチレン樹脂価格動向

ア. 塩ビ樹脂

農ビの主原料である塩ビ樹脂につきましては、原油価格の上昇等を背景に原料メーカー各社は令和3年4月に3年ぶりの値上げが行われて以降、計3回の値上げが実施され、令和4年1月には41年ぶりの最高値を更新いたしました。

また、原油・ナフサ価格の急騰を受けて、令和4年4月出荷分よりさらなる値上げを打ち出し、値上げが浸透している模様です。

イ. 低密度ポリエチレン樹脂

農ポリ、農P0の主原料である低密度ポリエチレン樹脂につきましては、主原料である国産ナフサ価格の上昇などを背景に、原料メーカー各社は令和3年2月以降、計6回の値上げを実施しました。

また、令和4年3～4月出荷分からのさらなる大幅な値上げを打ち出し、値上げが浸透している模様です。

(4) 農ビ・農P0・農ポリ価格動向

上記のような原料情勢の他、物流経費、固定費等が上昇していることに伴い、大手製造メーカーであるタキロンシーアイ(株)、三菱ケミカルアグリドリーム(株)などは農ビ・農P0等について令和4年4月出荷分から大幅な値上げを打ち出しております。

さらに、直近の原料価格急騰の影響により追加値上げを打ち出し始めているメーカーも出てきている模様です。

厳しい原料情勢から、メーカー各社は強硬な姿勢を貫いており、今後の価格交渉は難航することが予想されます。

2 農業用パイプ情勢

(1) 鉄鋼原材料価格動向（鉄鉱石、原料炭）

日本国内の高炉メーカーが調達する鉄鋼原材料価格は、国際相場のスポット価格（随時契約）から算出し、四半期毎に決定します。

鉄鉱石の令和4年4～6月の調達価格は、前期（1～3月）より約24%上昇しました。原料炭の1～3月の調達価格につきましても、前期（10～12月）より約6%上昇し依然として最高値圏で推移しております。

世界情勢に左右され短期的な上下動を繰り返しておりますが、直近ではロシアのウクライナ侵攻による供給不安から一段と値上がりし、依然として鉄鉱石・原料炭ともに高い水準で推移しております。

(2) 鋼板価格動向

製鉄会社各社は国内の鋼材需要の縮小傾向に合わせて過剰な生産能力を削減するために、老朽化設備や稼働率の低い設備の合理化を進めており、この流れは今後も継続しそうです。

また、脱炭素に向けた動きが世界で加速するなかで、二酸化炭素排出量が多い鉄鋼業は変革を迫られており、脱炭素に向けた取り組み等の財源を確保するため原材料価格の転嫁以外にも収益改善を図ろうとしております。

このような状況の中で冷延薄板の価格につきましては、一昨年の秋頃から上昇を続けております。

※2021年度 日本製鉄 呉製鉄所（2基停止）・和歌山製鉄所（1基休止）

※2023年度 JFEスチール東日本製鉄所京浜地区（1基休止予定）

※2024年度 日本製鉄 東日本製鉄所鹿島地区（1基休止予定）

(3) 製品価格動向（農業用メッキ鋼管）

一部鋼管メーカーは、世界規模のコイルの需給ひっ迫による高炉メーカーからの値上げを受け、令和3年4月出荷分から15%程度の値上げを打ち出しました。

その後も高騰が続く鋼板価格などの製品転嫁のため、大手鋼管メーカーの丸一鋼管(株)は、令和4年4月出荷分より副資材や人件費、物流費のコストアップ分も加え、20%以上の値上げを発表しました。

以 上